

知的障害者の意思決定の補助や意思表 出を補助する支援機器について考える

熊本県 社会福祉法人つつじヶ丘学園
施設長 恒松祐輔

「ニーズ・シーズマッチング地域交流会 ATAサテライト熊本」

1日目：9月19日（火）
13時30分～16時30分
2日目：9月20日（水）
10時00分～12時00分

【会場】 くまもと県民交流館パレア

障害者自立支援機器

ニーズ・シーズマッチング 地域交流会

参加料 無料

ATAサテライト熊本 開催のご案内

みんなで考えよう！

厚生労働省より補助を受け、障害者の自立支援機器に関する「ニーズ・シーズマッチング地域交流会 ATAサテライト熊本」を開催します。このATAサテライトでは、自立支援機器に係わる地域のニーズ側（使う人）とシーズ側（作る人）の関係者が集い、障害当事者に置かれている課題を共有し、その課題解決に向けた具体的な支援機器のイメージを検討します。

テーマ 知的障害者の意思決定の補助や意思表出を補助する支援機器について考える

座長 社会福祉法人つつじヶ丘学園 施設長 恒松 祐輔氏

開催日	第1部 ニーズを知ろう・深掘りしよう 令和5年9月19日 木 PM 1:30～PM 4:30	第2部 解決に向けて考えよう 令和5年9月20日 金 AM 10:00～PM 12:00
会場	くまもと県民交流館パレア 会議室9 (熊本市中央区手取本町8番9号)	
参加料・参加資格	参加料無料 福祉機器、本テーマにご興味あるかたはだれでも参加できます。	
定数	定員 20名程度 ※原則、対面での開催とします	

参加ご希望の方は右記QRコードよりお申込みください お申し込みはこちらから⇒

お申込み 問い合わせ先

主催者 公益財団法人テクノエイド協会 企画部 宇田川、香川、五島
東京都新宿区神楽河岸1-1セントラルプラザ4F
電話 03-3266-6883 メール shogai-kiki2@techno-aids.or.jp

公益財団法人テクノエイド協会
The Association for Technical Aids(ATA)

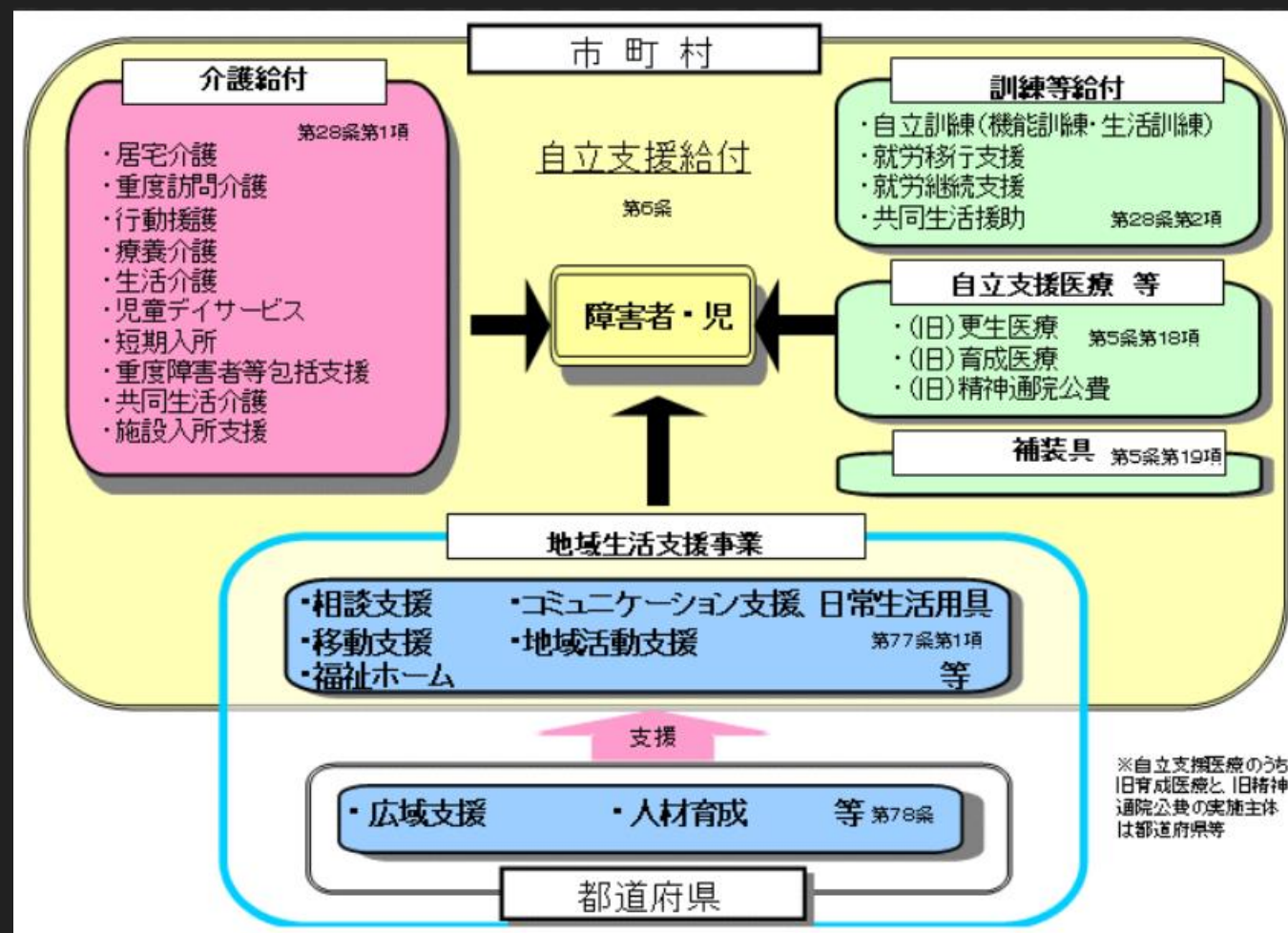
知的障害者とは・・・

参加者の中には、知的障害とはどんな障害かを理解しなければどのようなことに困っていて、どんな支援機器が必要か考えることが難しい。また、普段から接しているスタッフであっても改めてどのような障害か、どのような方が地域で生活され、障害福祉サービス事業所にはどのような方が利用しているかを理解することも必要。

知的障害とは「知的機能の障害が発達期（おおむね18歳まで）にあらわれ、日常生活に支障が生じているため、何らかの特別の援助を必要とする状態にあるもの」厚生労働省HPより

障害者総合支援法

「障害者の日常生活及びに社会生活を総合的に支援するための法律」



意思決定支援

憲法13条（個人の尊重、幸福追求権、公共の福祉）

「すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で最大限の尊重を必要とする。」

※この憲法は私的な事項については公権力に干渉されずに自分で極めることが出来る「自己決定」を含むとされ、自立の権利はこの「自己決定権」の一貫として保障され、**「自分のことは自分で決めること」**は憲法上の権利である。

障害者権利条約

障害者権利条約の締結

2006年12月に国連で採択された障害者の権利に関する条約「**障害者権利条約**」では、制定までの過程で障害のある人たちが以下のスローガンを掲げました。

**"Nothing About Us Without Us"わたしたちのことを わたしたち抜きに
決めないで**

2014年に日本はこの国連の障害者権利条約を批准し、障害者基本法の改正、障害者総合支援法、障害者虐待防止法、障害者差別解消法等の国内法の整備を行った。

意思決定支援

(意思形成支援と意思表出支援)

意思形成支援

幼少期からの経験や体験を通して意思が作られる過程の支援で意思決定支援の要素や前提といえる重要な支援。その中で以下の項目が大切です。

- ①支援者や生活環境。
- ②様々な経験や体験を積む機会。
- ③情報提供。
- ④年齢に応じた選ぶ機会の提供。

例) ルビや口頭、写真や動画、絵やマークなどでの丁寧な情報提供。給食に選択メニューを入れる。
旅行や外食などで様々な施設を利用体験する。イベントや文化活動、スポーツなどを体験する。

意思表出支援

- ①本人自らの意思を表出・出現出来るような具体的な支援。
- ②表出されている意思に気づく支援者。

例) 本人から発せられた言葉の真意を会議で検討する。言葉を発することが出来ない方の健康状態や精神状態、表情などを意識しながら支援を行う。表情や目の動きなどで本人の様子や喜怒哀楽を察する。

意思決定支援を行う上での私見と仮説

①認知機能の強化、訓練

必要な認知機能として「数を数える力」「覚える力」「書き写す力」「見つける力」「想像する力」etc.があり、その認知機能を正しく、また、それを強化、訓練する。

②社会性を身につけながら認知機能の強化や選択の機会の創出。

③経験出来ないことなどを仮想空間やゲームの中で経験し、意思形成、意思表出を強化する。

④専用端末、アプリなどを使い、様々な情報を本人や支援者が入力し、本人専用AIを育成し本人の意思決定の補助、また、支援者や家族は本人の意思確認の補助を行う。

⑤④のAIをサービス等利用計画や個別支援計画作成のアセスメントにも活用。

⑥④のAIを本人のもしものの時の命の選択や死亡後の意思想像の参考に。

「ニーズ・シーズマッチング地域交流会 A T Aサテラ イト熊本」

1日目

- ①自己紹介
- ②それぞれの分野での取り組みの紹介
 - ・ 和綿を通じた地域づくり（共生社会の実現）
 - ・ UDeスポーツを通しての社会参加、就労支援等
 - ・ ITC を使用して重度身体障がい者の社会参加
 - ・ 障害児へのローテクを活かした手作り補助具
- ③知的障害者とは、知的障害者のイメージとは
- ④UDeスポーツ機器を活用した意思決定支援の可能性

「ニーズ・シーズマッチング地域交流会 A T Aサテラ イト熊本」 2日目

①意思決定における悩み

事例1) 日常における意思決定
「記念撮影の集合写真」

事例2) 人生における意思決定
「生活の場の選択（施設か自宅かそれ以外か）」

事例3) 命における意思決定
「高齢化による胃瘻造設の選択、命の選択」

「ニーズ・シーズマッチング地域交流会 A T Aサテライト熊本」 2日目

②ニーズ

- UDeスポーツ機器のような知的障害者でも簡単に操作できるような意思を表出することが可能な機器の開発、普及
- 意思を表出する機器を活用した幼少期からの意思表出訓練
- 各ライフステージにおける意思表出による意思決定支援
- 知的障害者を含め誰もが当たり前に意思表出が出来る社会の実現